

## 「尾瀬ヶ原散策」

2024年7月11日 池内淑皓

2024年7月8日(月)・9日(火)梅雨の最中、ニッコウキスゲを見ようと尾瀬に出掛けた。今が一番の見頃なのだ。バスタ新宿から(7:15)関越交通バスで、直接尾瀬の玄関口戸倉に到着(4,200)。ここからマイクロバスで鳩待峠に行く。鳩待峠行きは、乗り合いタクシーに連結して便利(1,300)、お昼には峠に着く。



鳩待峠から下り1時間10分程で、尾瀬ヶ原入口(山の鼻)に到着する



平成天皇が宿泊したと云う「山の鼻小屋」に宿泊して、尾瀬ヶ原を散策する





晴れではなかったけれど雨も来ず、まずまずの入山であった。ニッコウキスゲが咲いていない



ナガバノモウセンゴケ



木道と池塘と燧岳(2,346m)





遥か彼方まで木道が続く、総延長 65km。山手線一周は 35km



ミズチドリ



道標は環境保護のために、木道に刻印されているが、ここだけは昔のままに在る



コバギボウシ



木道も多くのボランティアによって、修復・保全が保たれている



この木道の焼き印は、東京電力が平成 25 年に設置したもの





この木道は環境省が令和5年に設置したもの  
材は国産のカラマツを使用し、耐用年数約10年、費用は距離1m辺り約10万円かかる。総延長65kmに達する

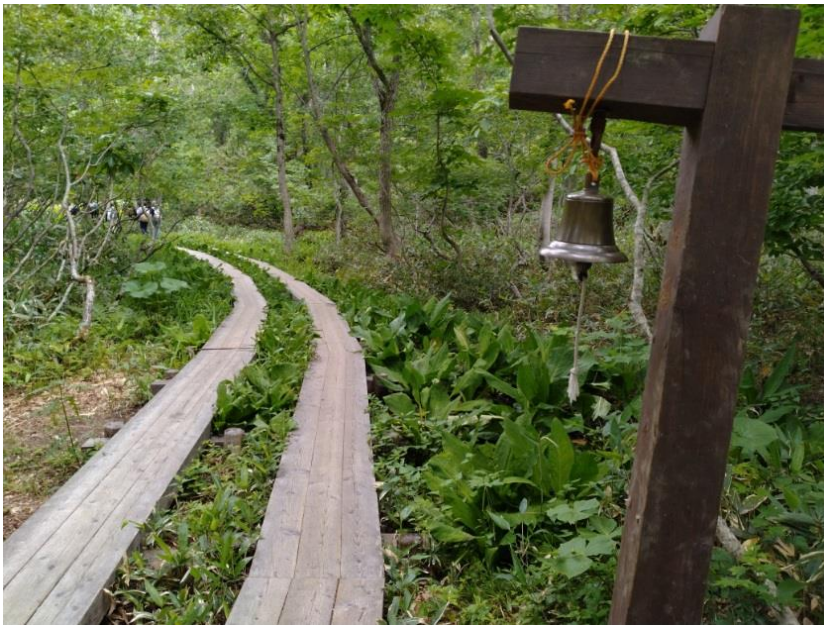


やっとニッコウキスゲに出会えた、後方の山は至仏山(2,228m)



水芭蕉の群落。花は終わっているが、その実を食べに熊が来る





水芭蕉の多い所には、鐘が設置されていて、鐘を鳴らして通過する



環境省では、山の鼻の湿原に「尾瀬研究見本園」を設置して、防鹿柵を設けた



素敵な尾瀬に柵と網は似合わないが、ここだけは防鹿柵を作り、鹿と熊の被害を防いでいる





黄菅の数は少ないが、かろうじて尾瀬の夏の風物詩が保たれた



閑話休題 私も記念に一枚パチリ



今日はヘリで荷物を降ろす日。二週間に一度、1トンの荷物が来る

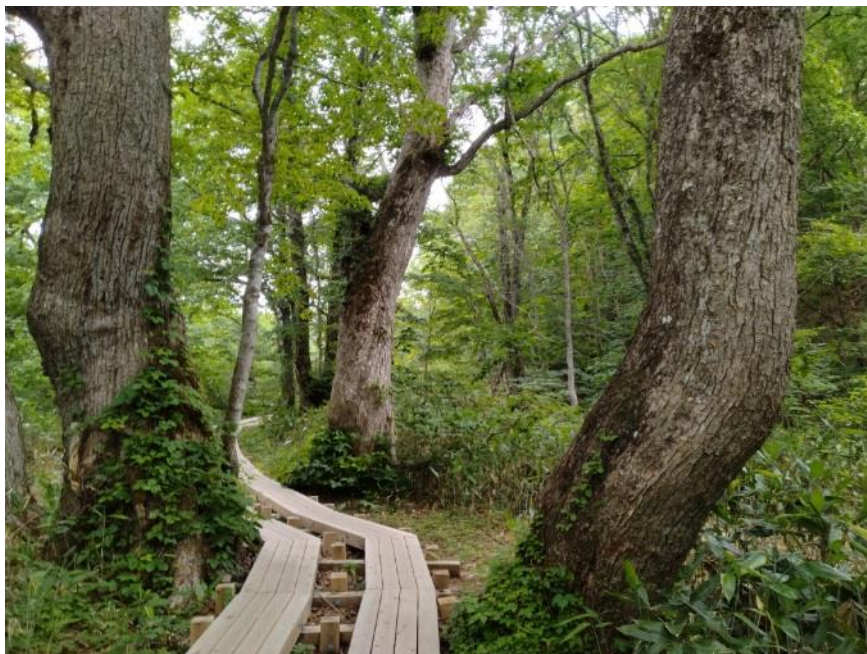




ポッカのお兄ちゃんも大活躍、70kgの荷物を運ぶ



ワタスゲ(綿菅)



貴重な尾瀬の自然、後世に残して行かねばならないと、強く感じた